

平成18年(昭和81年)12月12日(火)

# 東海の古代

第78号 編集・発行 古田史学の会・東海

代表 林 俊彦 〒461-0025 名古屋市東区徳川1-729

ホームページ: (「古田史学」で検索しても見つかります)

<http://geocities.jp/furutashigaku-tokai>

メール: [frrttokai@zm.commufa.jp](mailto:frrttokai@zm.commufa.jp)

電話/FAX(カラー可) 052(936)5012

郵便振替 00870-5-30752

先日、息子が台湾へ旅行してきました。いろいろ有名な所へ行ったというので、新高山はどうかと聞くと、そんな山は知らない。わが妻はニイタカヤマって台湾にあったの？と声をあげます。

新高山は3952メートル、先の戦争までは「日本一高い山」だった、「ニイタカヤマノボレ」の暗号文の背景にこれがある、と説明すると、二人とも知らなかった、習わなかったといえます。わが家では、現代史の常識すら共有できないようです。いわんや古代史をや。こういうのも家庭内別居と呼ぶのでしょうか。

様々な家庭環境を乗り越えて来年も多元史観を掲げ、猪突猛進しましょう。古田史学はイチバンデース。良いお年を。

## 武烈紀の新たな秘密

11月にあった古田史学の会の関西例会で、神奈川の富川ケイ子さんが皆の意表をつく発表をされました。武烈紀にこうあります。

六年の秋九月の乙巳の朔に、詔して曰はく、「國を傳ふる機(ツリゴト)は、子を立つるを貴しとす。朕、継嗣無し。何を以てか名を傳へむ。且く天皇の舊例に依りて、小泊瀬舎人を置きて、代の号として、萬歳に忘れ難からしめよ」とのたまふ。冬十月に、百濟國、麻那君(マナキ)を遣して、調進る。天皇以為さく、百濟、年歴て貢職たてまつらずとおもほしめず。留めて放さず。

武烈は子が無いと嘆きます。そこへ百濟から「麻那君」がやってきます。武烈はこれを放さなかった、という記事です。これまで百濟の使・麻那君は男と思われていました。続いて七年に次の記事があります。

夏四月に、百濟の主、斯我君(シガキ)を遣して、調進る。別に表たてまつりて曰さく、「前に調進れる使麻那は、百濟國の主の骨族に非ず。故、謹みて斯我を遣して、朝に事へ奉らしむ」とまうす。遂に子有りて、法師君(ホフシキ)と曰ふ。是れ倭君の先(オヤ)なり。

麻那君に代えて斯我君を送ってきた。そうすると「遂に子有りて、法師君」となります。つまり子供はいなかったとされていた武烈ですが、実は斯我君は女性で二人の間に子供ができていたのではないかと富川さんは指摘されました。

大変な指摘です。子の性別は不明ですが、当時の状況判断が大きく変わります。もはや血統の劣る継体が出る幕がなくなります。「倭君の先」とありますから、その後の血統も続いたことは確かです。この子供が男である可能性も高いでしょう。

また「倭君」とはどんな一族でしょう。岩波古典文学大系本の説明では「倭君は他に見えないが、姓氏録、左京諸蕃に『和朝臣、出自百濟國都慕王十八世孫武寧王也』とある。この和朝臣は、武寧王の子の純陀太子の子孫で、ふつう和史(やまとのふひと)の末とされているが、或はこの倭君と和朝臣とが結び付くのかも知れない」としています。

子供の名が「法師君」というのも興味深いですね。仏教と関係があるようにもみえます。聖徳太子よりずっと以前に。

実は継体紀冒頭にこうあります。

(武烈)八年の冬十二月の己亥に小泊瀬天皇(武烈)崩りましぬ。元より男女無くして、継嗣絶ゆべし。壬子に、大伴金村大連議りて方に曰はく、「今絶えて継嗣無し。天下、何の所にか心を繁けむ。古より今にいたるまでに、禍これによりて起る。今足仲彦天皇(仲哀)の五世の孫倭彦王、丹波國の桑田郡に在す。請ふ、試に兵仗を設けて、乗

輿を夾み衛りて、就きて迎へ奉りて、立てて人主としまつらむ」といふ。大臣・大連等、一に皆随ひて、迎へ奉ること、計の如し。是に倭彦王、遙に迎へたてまつる兵を望りて、懼然りて色失りぬ。よりて山壑に遁りて、詣せむ所を知らず。

武烈には男女ともに子がいない、となっていています。倭彦王は臆病者で、迎への隊列を見て逃げたと言います。それで継体の出番となります。武烈紀とどちらの信憑性が高いでしょう。

また「倭君」と「倭彦王」との関係はないのでしょうか。本当は九州王朝の内部の記事ではないのでしょうか。

日本書紀にはまだまだ秘密が隠れています。富川さんの今後の研究の進展が楽しみです。

## 新年、大阪で 古田武彦講演会

主催：古田史学の会（全国）

日程：1月20日（土）午後1時半～4時半

会場：大阪市立中央青年センター  
（大阪府中央区法円坂）

JR森之宮 西へ徒歩十分

電話06・6943・5021

参加費：千円

最新の古田説に触れることができます。ぜひ一緒に参加しましょう。なお当日会場で、東京古田会の「古田武彦と『百問百答』」を入手することもできます。

### 1月例会に参加を

日程：1月14日（日）午後1時半～5時

場所：名古屋市市政資料館第1集会室（2階）

名古屋市東区白壁1の3（名古屋拘置所南）

地下鉄名城線「市役所」下車、東へ徒歩8分

名鉄瀬戸線「東大手」下車、南へ徒歩5分

市バス「市政資料館南」下車、北へ徒歩5分

〃 「清水口」下車、南西へ徒歩8分

〃 「市役所」下車、東へ徒歩8分

一応、駐車場有（無料）12台収容

南隣にウィルあいち（愛知県女性総合センター）

地下駐車場30分170円

参加費：500円（維持会員は無料）

### 今後の予定

2月例会：2月11日（日）（市政資料館第1）

3月例会：3月11日（日）（未定）

例会はなるべく毎月第2日曜日に固定したいので会場をしばしば変更することになりました。会場により開始・終了時刻も変わります。よく確認してからお出かけください。

古田先生とその学問に興味のある方ならどなたの参加も歓迎します。また参加に際し事前連絡は不要です。遅刻早退もかまいません。例会の場での研究報告、見解発表は大歓迎です。

### 阿蘇神社の神事から

古本市で見つけた雑誌「日本民俗学」185号で「衣そそぎの神事」という記事を見つけました。1987年11月4日に熊本県阿蘇郡高森町上色見洗川で、阿蘇神社大宮司の代替わりに伴い、「衣そそぎの神事」が行われました。

同地区の上洗川神社で神事を行い、そのすぐ下にある井川で、大宮司がさらしの白布に水を掛け、近く of 掛干地区にある天神さんの脇に干す神事です。これは阿蘇神社の祭神、建磐龍命が阿蘇谷から日ノ尾峠を越え、南郷谷の草部の妃神阿蘇都媛命のもとに「妻問い」に出かけた帰り、汗で汚れた衣服を洗川の清水で洗わせ、干させたという神話に由来するといえます。

同神社によれば古くから伝わる神事だそうですが、残念ながら記録上はあまりさかのぼれません。

阿蘇神社は肥後国一ノ宮であり、九州年号を持つ文書も伝え古代史の観点からきわめて興味深いところ です。

衣を干すのが神事、といえは「衣干すてふ天の香具山」の歌を思い出します。あの歌は神主の神事を目撃した歌ではないか、との連想も起きます。また神事で使われる「井川」は水槽に屋根をつけた小さな設備です。神社の近くに設けられます。川の名ではありません。ここから木桶で水を汲み衣にかけます。そして干すわけです。井川といえは阪神ファンを裏切りアメリカに身売りした若者を思い出しますが、こんな用法を持つ語でもあったわけです。